

## NIE実践校本格始動



学校の授業などで新聞を活用するNIE活動が、本年度も県内9実践指定校を中心に始まった。2020年度には「社会に開かれた教育」を目指す新学習指導要領が小学校で全面实施となる。NIEの現場では、

社会のあらゆる事象を取り上げる新聞を教材として、新指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」が模索されることになる。

NIEの授業では、新聞記事を基に児童生徒が話し合いをする場面をよく目にする。最近、見学した小学

校の授業では、北海道新聞と福井新聞の記事を読み比べ、自分の考えをしっかりと発表する子どもの姿が印象的だった。「主体的・対話的で深い学び」とNIEとの親和性を実感する。

本年度の県内の実践指定校は新規5校、昨年度からの継続4校。各校はそれぞれ、時代にふさわしい目標を掲げている。

上庄中(大野市)は「コミュニケーションによる学びの深まりを築く集団づくりに迫る」、越廬中(福井市)は「対話による深い学びにつなげる」。ともに新学習指導要領を見据えて、時代が求める資質として「活用力、探求力、思考力、表現力の育成を図る」(福井市安居小)、「社会に目を向け、読み取る力・発信する力を育む」(若狭

中山小(越前市)は「情報を活用する力を高めること」で自ら問題を解決する力を育成する」とした。近年は「フェイクニュース」と呼ばれる偽情報が社会問題化しており、メディア・会話を活用し、メディア・情報を読み取る力(若狭

## 新聞活用し「深い学び」へ

町瓜生小)といった目標を掲げた実践校もある。

インターネットにより情報量が飛躍的に増加する中、情報を重視する実践校も目立つ。「世の中のとつなかりを深め、情報発信力や実践力を高めよう」は粟野中(敦賀市)の目標。南

取る力)を取り上げる学校もある。糸生小(越前町)は、目標を「最適な情報を選択し自ら発信する能力を身につける」などとした。

菅原中は「情報モラル」をテーマに公開授業を実施。全国的にスマートフォンによるトラブルが相次ぐ中で

対応を考え合った。高校では武生東高が進路選択を見据えた新聞活用を試みる。生徒は志望分野に関連した記事を要約し、コメントを考える。社会の課題の解決策を提示する力を育成する狙いだ。

今後、人工知能(AI)技術によって、産業構造は劇的に変化していく。グローバル化もますます進むだろう。その変化する社会と新聞は密接につながっている。NIEは、社会の変化に対応できる柔軟性や、新しい価値を生み出す独創性にあふれた人づくりに結びつくはず。実践校のみならず、広く活用が広がることを期待したい。